

新年度スタート特集

正しい専大生活の ススメ

春です。新しい生活が始まります。親としては、子供が楽しく安全に、充実した日々を過ごすことを願うばかり。そこで、今回の特集では学生生活について学生の生の声を、また生田・神田キャンパスの様子を、さらに知って納得の専大マメ知識をお伝えします。

座談会 安心安全な 大学生活を送るために

飲酒、SNS、恋愛、アルバイト、一人暮らし…大学生活を彩る楽しい出来事。しかし、付き合い方を間違えと思わぬトラブルに発展することも。そこで、学生の皆さんに集まっていたいただき、大学生活を送るうえで注意したいことについて語り合ってもらいました。聞き役は学生部長の阿藤正道先生です。



経済学部経済学科2年
姜 泉平さん

中国の大学で経営学を学んだ後、来日。日本語学校を経て、専修大学に入学。経済学を学びつつ、留学生に向けたビジネスを構想中。

経営学部経営学科3年
西村拓海さん

ヒーローショーを演じるサークルSAC（専修大学アクションサークル）の代表。趣味は特撮のコスプレ。

学生部長
阿藤正道
商学部教授

学生生活全般を支援する学生部長として10年。楽しく安全に学生生活を送れるよう、様々な事故、トラブルに対応している。

経済学部国際経済学科3年
濱崎菜緒さん

体育会アメリカンフットボール部のマネージャー。一つのゴールに向かってみんなで取り組むことが好きで、ゼミにも力を入れる。

ネットワーク情報学部
ネットワーク情報学科3年
霜崎優一さん

プログラミングを学び、ゲーム制作に取り組む。音楽サークル、スカバンド研究会スフィードの代表も務める。

飲酒

無理やり飲ませない、無理して飲まない

阿藤：まずお酒の話から。私が学生のころは浪人して入学する学生も多く、世間でも大学生は大人とみなされるような雰囲気がありました。今は時代が変わり、年齢を確認して、未成年にはソフトドリンクしか出さないという居酒屋も多くあります。今日集まっていた皆さんの年齢は20歳以上ですが、サークルなどで飲酒する機会はありますか。

西村：私のサークルでは、お酒を飲む機会は多くないです。後輩もお酒を飲みたがらないので、飲酒で問題になることはまずないです。

霜崎：僕たちのサークルでは、飲みたくない人には強要しないようにしています。サークルによってはイッキ飲みコールをすることがありますが、それも禁止しています。ですので、お酒で問題が起こるリスクは少ないと思います。個人的に飲みすぎて失敗したことはありますが(笑)。

姜：中国でも未成年は飲酒禁止ですが、日本のようにお店で年齢を確認されるということはないので、日本の厳しい監視には驚きました。小さい頃から、よくお父さんのお酒を買いに行かされました(笑)。中国の学生は日本の学生よりもよく飲みます。中国の乾杯は一気に飲み干さなければならないので大変です。

阿藤：未成年者の飲酒は、提供した店側も責任を問われるようになったので、自衛手段として年齢を確認するようになってきました。以前に比べると無茶な飲み方をする学生は減っているようです。しかし一昨年には合宿中に限度を超えた飲酒で救急搬送された学生が亡くなるという悲しい事故も起きています。大学としてはガイダンスなど様々な機会に飲酒事故の防止を訴

えているところです。

濱崎：私はアメリカンフットボール部のマネージャーをしていますが、部活としてお酒を飲むことは禁止されています。合宿の最終日だとしても、お酒が出ることはありません。

阿藤：体育会というと、世間ではお酒をたくさん飲むというイメージがあるかもしれませんが、確かに昔はそうだったかもしれませんが、今は専修大学の体育会で部として飲み会をやることはまずないですね。

濱崎：そうですね。オフ期間に個人的に飲みに行くことはあるかもしれませんが、部の活動でお酒を飲むことはありません。それって皆さん意外と知らないですね。私も年に数えるほどしかお酒を飲まないです。

阿藤：大学の構内は基本的に飲酒を禁じています。学生食堂を使つての懇親会など、特別な場合のみ許可が出ています。

あなたはお酒に強い人？弱い人？ パッチテストで手軽に診断

アルコールに強い人か、弱い人か。自分の体質をあらかじめ知り、お酒と上手につき合う。学生の飲酒事故を防ぐため、専修大学ではアルコールに対する遺伝体質チェック「アルコール・パッチテスト」を定期的に行っている。検査は簡単、腕にパッチを貼って20分。肌が赤く色づくほどアルコール代謝能力が低いことがわかる。ちなみに日本人の4%はお酒が全く飲めず、40%はお酒に弱い体質だ。

検査結果が出るまでの間、学生は飲酒の危険性に関するビデオを鑑賞。急性アルコール中毒で息子を亡くした悲痛な母の声は、学生の心にどう響いたか。



↓キャンパス内に貼られたポスター。
体育会、サークルが飲酒事故防止を宣言





喫煙 周りへの気配りを

阿藤：この中で喫煙される方はいますか？ 一人もいないのですね。日本私立大学連盟による「学生生活実態調査」においても、喫煙率は年々下がってきていて、今は10%を切っています。昔に比べたら煙草を吸う学生は断然少なくなっていますが、日頃の生活のなかで喫煙に関連して嫌な思いをしたり、トラブルに遭ったりしたことはありますか。

西村：10号館の食堂のベランダに喫煙所がありますが、風向きによっては煙が流れてくるのが嫌ですね。

霜崎：部室の入り口など、喫煙所以外で吸っている人がいたりすると、嫌だなと思いますね。

阿藤：体育会の学生は、喫煙禁止ですか。

濱崎：体育会の学生は煙草を吸う人はほとんどいません。運動機能の低下につながるので、禁止されていると思います。

阿藤：生田キャンパスのある神奈川県条例では建物内での喫煙は禁止されています。昔は学内のあちこちに喫煙所がありましたが、今はだいぶ減りました。歩き煙草をする学生もほとんど見ません。でも、喫煙所で吸っていても煙が流れてくるという話もありましたので、まだまだ不十分な面があるのでしょうか。大学によっては全面禁煙に踏み切っているところもありますが、そうすると大学周辺で煙草を吸う人が増えて近隣に迷惑をかけるということもあるようです。

SNS 便利な道具である一方で…

阿藤：最近、バイト先で非常識なことをして、それを動画に撮ってSNS上に公開したことが大きなニュースになったりもしています。皆さんは普段、SNSを使っていますか？ そこのトラブルはありますか？

霜崎：一応アカウントは持っていますが、僕は自分の情報を発信することには使っていません。自分の好きなアーティストやゲーム会社などをフォローして、情報を得るために使っています。SNSでのトラブルは身近にあります。ツイッターにはブロック機能がありますが、どうしてもいいツイートをやる友達をブロックしたら、された側が怒って、もめたという話も聞きます。その争いをツイッター上でやったりして、SNSのめんどくさいところだなと思います。

阿藤：なるほどね。でも、SNSにはいい面もありますよね。サークルやゼミでグループを作って情報交換したり、情報の共有も簡単にできたりして便利ですよ。

西村：正しい使い方をしているうちはとても便利だと思いますが、いわゆる裏アカ[※]で本人に知られないように悪口を言うなんてことも実際にあります。

阿藤：SNSに不適切な投稿をしてトラブルや事件になることもあるので、注意するよう学生部でも呼び掛けています。

西村：最近、ニュースにもなった、回転すし店やコンビニのアルバイトが公開したバイトテロ動画などは、普通の感性があればそんなことは

しない。行為に品性が感じられないですね。

阿藤：やった本人もまさかそこまで大きな騒ぎになるとは考えていなかったと思います。ネットの怖いところは、あっという間に拡散してしまうところです。以前専修大学でも、早朝の教室で飲酒をしている様子を自撮りして、SNSにアップした未成年の学生がいて、その日のうちに拡散してしまいました。その学生は結局、退学処分になりました。大学としてはそういう悪質なケースは厳しい処分に対応しますので、変なトラブルは起こさないでほしいと思います。

姜：SNSは国民にとってはメリットが大きいです。新聞やテレビのメディアが国側に向かう場合、SNSがなければ発言の場がありません。SNSだからこそ、自由に発信できる。SNSのメリットも理解しなければいけないです。

濱崎：アメフト部では来場者を増やすために、インスタグラム、ツイッター、フェイスブックといったSNSに動画を上げたり、試合の案内を出したりしています。SNSで伝わることは多くて、部員の獲得にも役立っているのです。部にとってはありがたい広報ツールでもあります。

デートDV 相手への敬意が大切

阿藤：恋人間での精神的、もしくは肉体的な暴力がデートDVです。周りでそういう話を聞いたことありますか？

全員：聞かないですね。

阿藤：実は学生相談室では、そういう相談もあります。もし今後、デートDVの被害を受けた、

もしくは友達がそういう被害を受けているということがあったら、まずは学生相談室に相談いただくのが良いと思います。専門のカウンセラーがおりますので、的確なアドバイスをいただければと思います。そのほかキャンパスハラスメントなども同様に、まずは一人で抱え込まないで、気楽にご相談ください。

金銭トラブル 詐欺、ねずみ講… 今も昔も手口はいろいろ

阿藤：金銭に関するトラブルは昔からいろいろとあります。例えば、友人から高額な会員制のエステに勧誘され、それがあまりにしつこくて友人関係にひびが入ってしまったというケースもありました。また昨年の10月くらいから被害が出ているのが、50万円する投資プログラムの売買です。これを買えば、儲かるという話ですが、実際にうまくいくとは限らない。お金がないと言うと、学生ローンを組まされてまで買わされます。友人や知人を紹介すると、紹介料として5万円もらえるそうです。サークルとかゼミの仲間から勧誘を受けてトラブルになるケースが増えています。学生生活課の調査では2月18日の時点で、契約した、もしくは契約しそうな事案が28件ありました。大学のポータルシステムでも学生への注意喚起をしています。こういう被害の話は、皆さんの身近にありませんか？

霜崎：あやしい勧誘という点では、新入生歓迎会で宗教勧誘に遭ったという友達があります。サークルかと思って集まりに参加したら、宗教っぽい話になったので、逃げてきたと言っていま

恋人の身も心も踏みにじるデートDVを考える

身体への暴力だけでなく、言葉の暴力、執拗なメールや電話、外出や友達関係の制限など、恋人の主体性を奪い支配するのが「デートDV」。平成29年の内閣府調査では、交際相手がいいた女性の21.4%、男性の11.5%が、相手からの暴力を受けたことがあるという。デートDVを未然に防ぐため、専修大学のキャンパス・ハラスメント対策室では公開授業「デートDV予防啓発ワークショップ」を開催。学生同士の対話を通し「一人一人の価値観の違い」と「相手を尊重する気持ち」について学んだ。

被害者の中には家族や友人に心配かけたくない、一人で抱え込むケースもある。これってデートDV？と思ったら、キャンパス・ハラスメント対策室 (Tel.044-900-7858) などの相談機関へ。



↑昨年7月に川崎市の協力で開催された公開授業



した。

阿藤： 新入生勧誘の時期は、非常にたくさんの団体が動いていて、中には大学のサークルでない団体の勧誘もあるようです。そうした勧誘には注意するよう呼び掛けています。

アルバイト、ひどい目に遭ってない？

阿藤： 皆さんはアルバイトをしていますか？

一同： はい。

阿藤： ブラックバイトの話は聞きませんか？

西村： 僕は塾講師のアルバイトをしています。塾の運営も手伝ってほしいという話もありましたが、給料分の仕事だけと割り切って、教えることだけに専念しています。

霜崎： 僕はファストフード店でアルバイトをしています。各店舗のアルバイトを集めて1時間程度のミーティングがありましたが、それには給料が出ませんでした。ミーティングには、もう二度と行かないと思いました。それって給料が発生する時間内にすべきことだと思っています。

濱崎： バーガーショップで働いていますが、そこは部活の融通が利くので、すごくありがたいです。

姜： 僕は居酒屋の厨房で働いています。日本に来た当初はまだ日本語に慣れていなくて、よく怒られました。今は慣れて、嫌な思いはしていません。

阿藤： 留学生の場合は、アルバイトができる時間にも制限がありますね。

姜： 週に28時間以内。長期休暇中は1日8時間以内です。

阿藤： それをオーバーすると在留資格にもかわってくるでしょ。

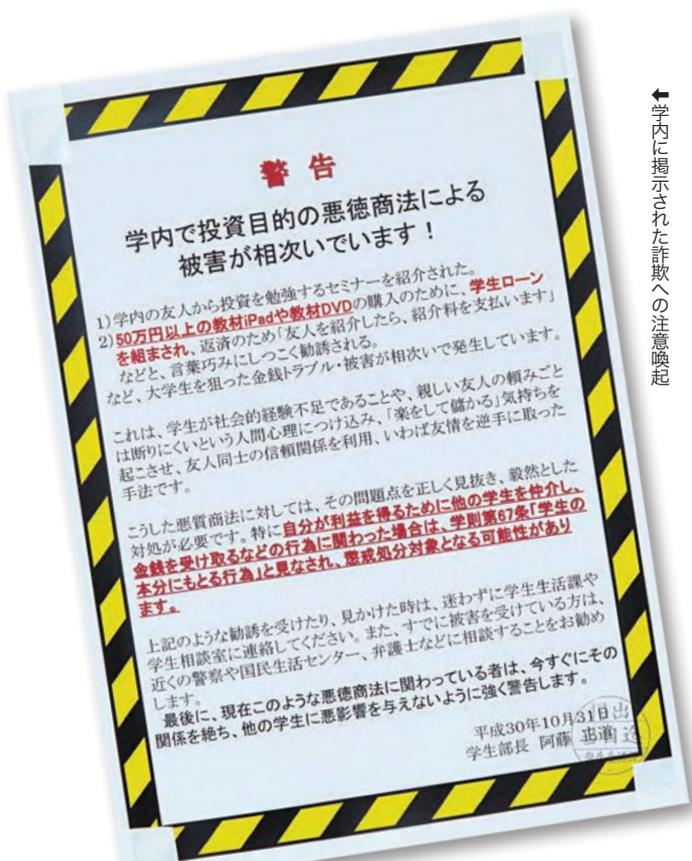
姜： 現金で払ってくれる職場で働く人もいます。でも、それでトラブルになることもあるようです。

阿藤： 一般の学生はあまり知らないことかもしれないですね。留学生には入学時に、国際交流事務課から説明がありますね。

姜： はい、ありました。

一人暮らし 不要なセールスはきっぱりと断る

阿藤： この中で一人暮らしをしているのは、霜崎さんと姜さんですが、自宅に訪問販売は来ま



←学内に掲示された詐欺への注意喚起

すか。

霜崎：はい。変な営業が来ました。地域の防犯コミュニティと名乗って、真夏なのに手袋していてちょっと怖かった。資料があったら、それだけ置いていってくださっていったら、「また来ます」って、急ぎ足で去っていきました。宗教の勧誘も来ます。でも、危険な目には遭ってないです。

姜：僕も宗教の勧誘がよく来ましたが、「日本語わかりません」ってドア閉めました（一同笑）。

留学生 異国で暮らす 留学生を狙う罠

阿藤：昨年、大学に警視庁の方を招いて留学生のためのトラブル防止講習会を開催しました。金銭トラブル、就職ブローカーなどへ注意喚起する話があったようです。

姜：留学生に一番必要なことは、日本の法律を学ぶことだと思います。文化、習慣が違うため、中国で普通にやっていることでも日本では禁止されていることかもしれない。例えば、日本では植木がきれいだからといって、人の家の庭を勝手に撮影したらトラブルになる。その点中国ではあまり気にしないところがあります。

留学生は日本に来て、保護者もいません。信頼できる先生などに相談しながら、いろいろなことを決めた方がいいかもしれない。中には家を借りるとき仲介の人に百万円渡したら、その後連絡が取れなくなってしまったという人もいます。まずは、その会社がちゃんとあるかを確



認した方がいい。

阿藤：異なる文化、ルールの国で暮らすのは大変なことです。大学でもその点のサポートはしていきたいと考えています。せっかく日本に来たのだから、充実した生活を送ってほしいです。また、日本人の学生も留学生と話すことで学ぶことは大きいと思います。考え方の違いなども体験できるので、積極的にかかわってほしいですね。

姜：同じ人間ですから。この人は日本人だからとか中国人だからととらえるのではなく、一人の人間として付き合えればいいですね。

阿藤：今日は学生の皆さんから直接お話を聞いてよかったです。皆さんの意見を大切に、学生部はこれからも学生を支援していきます。学生の皆さんも、何かお困りのことがあったら学生部に相談していただければと思います。

ブラックバイトの被害に遭わないために 知っておきたいアルバイト基礎知識

休めない、辞められない、授業に出られない…アルバイトを巡るトラブルは年々増加。この状況に対応し専修大学では「ブラックバイト防止講習会」を開催し、トラブルに巻き込まれないために、また巻き込まれたときの対処法について、学生に理解を促している。

「給与が期日にもらえない」「時給が最低賃金を下回る」「罰金制度がある」など、これらは立派なブラックバイト。学生はアルバイトも労働法の適用対象であること理解し、しっかりと雇用契約書を確認することも必要だ。ブラックバイトに遭遇したら、学生相談室のほか厚労省「労働条件相談ほっとライン」(Tel.0120-811-610)などに相談してほしい。



↑昼休みを利用して行われた講座